

1-1-10 国指定・若山家

〈国指定〉昭和 52 年 6 月 27 日

〈所有者〉高山市

〈所在地〉上岡本町 1 丁目 590 番地

飛騨民俗村構内

(旧所在地 大野郡荘川村下滝)

〈時代〉宝暦初年 (1751)

〈員数〉1 棟

主屋 (1 棟) 桁行 17.1m、梁間 12.5m、1 重 4 階、切妻造、茅葺、西面及び南面庇付属、板葺

荘川村に 2 軒あった合掌造りの 1 つで下滝にあった。電源開発による御母衣ダムの建設により水没するため、昭和 34 年、現在地へ移されている。

若山家は荘川造りといわれる入母屋造りから、白川村の合掌造りに移行する唯一の建物である。外形は白川村の合掌造りだが、小屋組は荘川式の入母屋造りに近い構造をしており、その他にも両様式が共存する点が多い。建築年代は高山の大工によって宝暦初年 (1751) に建てられたと伝承はあるが、構造手法から 18 世紀末頃ともいわれる。

間口は 9 間半、奥行は 6 間半と奥行が深く、4 階建て、背面に 1 間通りの下屋を設ける。平面は棟通りの約半間後方で前後に分かれ、それぞれ 4 室ずつに間仕切る。前側の下手 3 間分を土間とし、広い「ウマヤ」「コウマヤ」を設ける。土間の上手は前 1 間通りを「ドウジ」と「エンゲ (縁)」とし、その後ろは下手より取次や廊下の用に使われた「シヤシ」、接客や男の居間寢室の「オエ」、寄り合いに使われた「スエノデイ」と並ぶ。「エンゲ」には若い女の寢所にあてられた中 2 階を設け、梯子段で昇降する。後側は下手より穀類の調整場「ウスナカ」「ダイドコ」「チョウダ」、家長夫妻の室である「ナカノデイ」の 4 室が並ぶ。背面 1 間通りは下手より炊事場の「ミンジャ」、女の寢室の「オクノチョウダ」、仏間の「オクノデイ」と並ぶ。「ミンジャ」はさらに背面に 1 間半張り出して「ナガシ」と「フロ」を設ける。「オクノデイ」は背面に 1 間の仏壇がついているが、これは現在地に移築した際、設けたもので、以前は東面にあった。構造は正面を船柁造り (側柱上部から腕木を突出して小板を張った棚を持つもので、組頭・名主層以上にしか許されなかった) としている。合掌は「エンゲ」を取り込んだ最も外側の柱列の上に組まれた素屋造りである。背面に 1 間半の葺下し屋根が加わっている。

荘川村にあった当時は、北流する荘川の西河岸の下滝という扇状地にあつて、若山家の他に 5 軒で 1 つの集落を構成していた。屋敷地は川に向かって緩く傾斜し、東面する主屋を中心に味噌小屋、板倉、便所、ハサ小屋、田畑等が周辺にあった。

参考文献

『高山の文化財』22～24 頁 高山市教育委員会発行 平成 6 年